

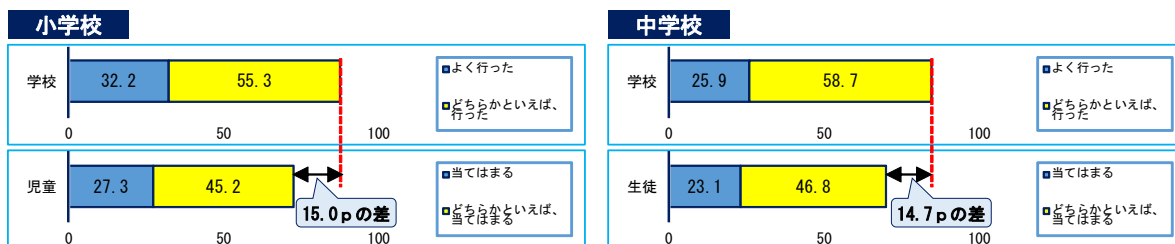
② 主体的・対話的で深い学び

主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する取組状況

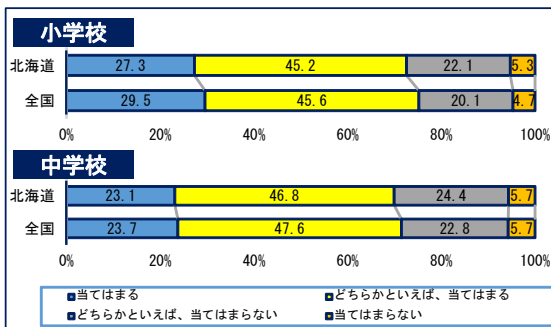
学 校 質 問 紙 「児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、発表するなどの学習活動を取り入れましたか」

児童生徒質問紙 「学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか」

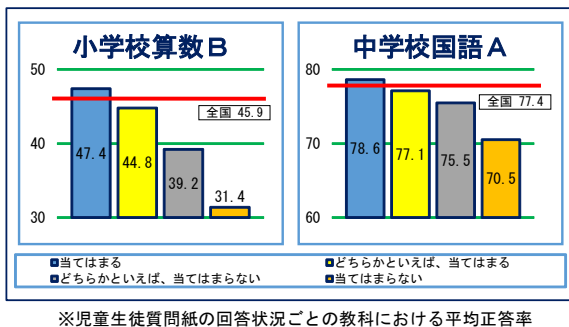
〔学校質問紙と児童生徒質問紙の比較〕



〔児童生徒質問紙の全国との比較〕

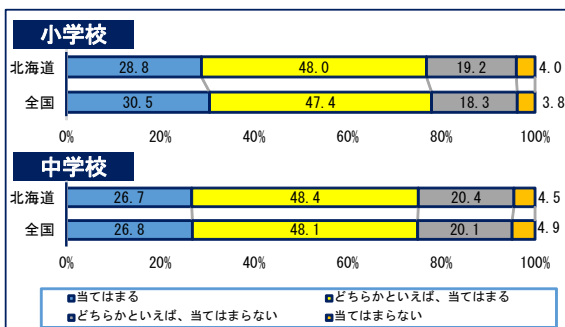


〔児童生徒質問紙と学力のクロス分析〕

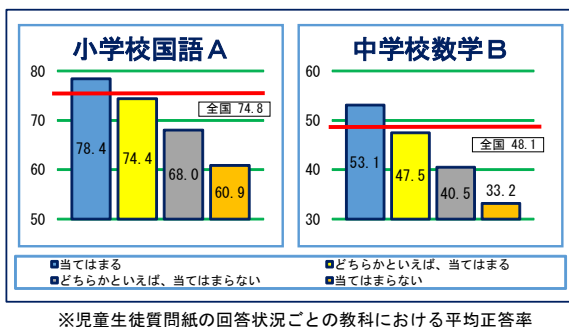


「先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」

〔児童生徒質問紙の全国との比較〕



〔児童生徒質問紙と学力のクロス分析〕



主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する取組状況についての質問では、学校が「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合と、児童生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合を比較すると、約15ポイントの差が見られます。

また、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、すべての項目で全国を下回っています。

一方、「当てはまる」と回答した児童生徒の教科の平均正答率を見てみると、すべての教科で全国平均を上回っていることが分かります。

これらのことから、主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、自分の考えをもち表現すること、相手や目的を意識して情報を収集して表現することなど、授業改善を図ることが大切です。

② - 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例（国語）

平成29年度全国学力・学習状況調査B問題から見られた課題

小学校
国語B
3三

【出題の趣旨】
物語を読み、具体的な叙述を
基に理由を明確にして、自分の
考えをまとめる

	北海道	全国	差
正答率	41.6	43.7	-2.1
無解答率	23.0	19.4	+3.6

自分の考えがどの叙述に基づいているのかを明らかにしながら交流することで、自分の考えが明確になるということを見ることが実感できるようにすることが大切です。

第二次②③／7 心に響いた場面や叙述とその理由について交流する

文章の中から、心に響いた場面や叙述を見付け、その理由を考える



Aさん

「あたりの木がいつせいにざざつと…」というところが不思議な感じがして、心に響いたよ。ここをこの物語の魅力として推薦したいんだけど、不思議なところはほかにもあるかもしれない。友達に考えも聞いてみよう。

グループで交流し、自分の考えを明確にする



Aさん

「きつねの写真」の不思議なところを推薦しようと思っているんだけど…。

どこから不思議だと思ったの。



Bさん



Aさん

「あたりの木がいつせいにざざつと…」というところから、木が葉をゆすつてとび吉を呼ぶなんて不思議な感じがすると思ったんだ。ほかにもあるかな。

「まるでまっていたように…」というところも、林の中に戻っていったはずの松ぞうじいさんが急に現れたから不思議だと思ったよ。



Cさん

そうか、Aさんは情景を、Cさんは登場人物の行動を基に考えたんだね。不思議な感じがする表現は物語全体に広がっているんだね。



Bさん



Aさん

みんなの考えを聞いて、不思議なところが魅力だという推薦の理由がはっきりしてきたよ。もう一度この物語を読んで確かめてみるね。

学習を振り返る



Aさん

交流を通して、すいせん理由がよりはっきりしてきた。Cさんから意見をもらうことで、登場人物の行動からも不思議な感じがするということが分かった。すいせん理由をもう一度考え直してすいせんの文章を書きたいと思う。

心に響いた場面や叙述とその理由を明確にするために…

- 心に響く叙述を見付ける
 - ・ 登場人物の行動、会話、心情、相互関係
 - ・ 場面についての描写 など
- 複数の場面の叙述を相互に関係付ける
- 自分の知識や経験、読書体験などと結び付ける

など

交流を通して、自分の考えを明確にするために…

- 「自分の考えをより確かなものにしたい」、「ほかにもあるかもしれないから聞いてみたい」など、何のために交流するのかを見ることが実感できるようにします。
- 自分の考えがどの叙述に基づいているのかを、児童が自覚することができるようにします。
- 自分の考えや交流したことをノートにメモすることで、自分の考えがどのように変わったのかを記録に残し、推薦の文章を書く際に活用できるようにします。
- 第三次で、自分が選んだ物語の魅力について交流する際は、次のような交流が考えられます。
 - ・ 同じ物語を選んだ児童同士で交流することで、同じ物語でもいろいろな考えや、感じ方があることに気付くことができるようにする。
 - ・ 違う物語を選んだ児童同士で交流することで、自分の考えた魅力が物語の魅力の視点（登場人物の描かれ方、構成の工夫、表現の特色など）に合っているか吟味することができるようにする。また、自分が選んだ物語と他の物語とを比較しながら考えをまとめることができるようにする。

視点を明確にして、学習を振り返るために…

- 学習して分かったことや次に生かしたいことなど、何について振り返るのかを明確にすることが大切です。
- 交流して得たことや友達の見解を聞いて考えたことなど、交流について振り返ることも大切です。

② - 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例（国語）

平成29年度全国学力・学習状況調査B問題から見られた課題

中学校
国語B
3三

【出題の趣旨】
必要な情報を集めるための見
通しをもつ

	北海道	全国	差
正答率	67.2	68.8	-1.6
無解答率	8.8	7.4	+1.4

資料を作成する目的や相手を意識しながら、どのような情報を掲載すればよいのかや、なぜその情報を掲載しようとするのかなどについて検討し、見通しをもって情報収集できるようにすることが大切です。

第1時

① 学習の見通しをもつ。



教師

小学校6年生向けに、「『〇〇中学校の生活』を紹介する資料」を作ります。どのような情報を掲載すればよいのかや、なぜその情報を掲載しようとするのかなどについて検討しながら、グループごとにA4判の紙1枚にまとめましょう。

② 「学校説明会資料」などに掲載されている情報について、それぞれの情報が掲載されている理由や情報の示され方についてグループで意見を述べ合う。



Aさん

学校教育目標が載っているけれど、これは、目標を知っておくという場面で役立つということなのかな。

学校教育目標を知っておいた方が、学校の目指す方向についての校長先生の話なども理解しやすいのではないかな。また、1年間の行事予定を載せているのは、いつ、どのような行事が行われるのかや、そのための準備をどのようにすればよいのかななどについて、見通しをもってもらいたいからだね。月ごとに枠で囲って示してあるので分かりやすいね。



③ ②で交流した内容を生かしながら、「『〇〇中学校の生活』を紹介する資料」に掲載したい情報とその情報を掲載する理由、情報の収集の方法、情報の示し方について考え、各自でノートに書く。

第2時、第3時

④ 掲載したい情報とその情報を掲載する理由、情報の収集の方法、情報の示し方についてグループで交流する。

〇〇中学校の1年生が小学校の頃より難しくなると感じている教科についてアンケートをとり、出された教科名と具体的な勉強の仕方を表にして載せるとよいと思うな。6年生にとって役立つ情報なのではないかな。

アンケートで出された教科名を全部載せるのではなく、上位三つに絞って載せた方がインパクトがあるのではないかな。また、勉強の仕方については、生徒に聞いてもよいけれど、教科の先生に聞いて載せた方が説得力があるのではないかな。



それらの情報に触れることで、中学校での勉強に対する心構えができるということだね。情報の示し方については、教科の先生の似顔絵に吹き出しを付けて、その中に教科名とアドバイスを書くという工夫をするのはどうかな。

⑤ 交流した内容を踏まえ、各自のノートを見直す。 ※必要に応じて、小学校6年生にどのような情報があると便利かについて取材することも考えられる。

〔掲載する情報のアイデアを整理したAさんのノートの例〕

掲載したい情報	その情報を掲載する理由	◇情報の収集の方法 ◆情報の示し方
・小学校の頃より難しくなると感じている教科 (上位3教科) ・それらの教科の具体的な勉強の仕方	・6年生に役立つ情報だから。 現在の中学校1年生の思いや、教科の先生の言葉に触れることで、中学校での勉強に対する心構えができると考えられるから。	◇ 難しくなると感じている教科や具体的な勉強の仕方について、中学校1年生にアンケートをとる。 ◇ 具体的な勉強の仕方について、教科の先生にインタビューをする。 ◆ 表にする。それぞれの教科の先生の似顔絵に吹き出しを付け、その中に教科名とアドバイスを書く。

「平成29年度＜中学校＞全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」（国立教育政策研究所教育課程研究センター）より

② - 3 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例（算数）

平成29年度全国学力・学習状況調査B問題から見られた課題

小学校
算数B 1

【出題の趣旨】

算数の問題場面から見いだした数量の関係を考察したり、その関係を一般化して表現したりすることができる

		北海道	全国	差
示された条件を基に、適切な式を立てる	正答率	75.6	76.0	-0.4
	無解答率	2.1	2.0	+0.1
示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現する	正答率	79.4	81.8	-2.4
	無解答率	4.9	3.9	+1.0
問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを言葉と数を用いて記述する	正答率	37.6	38.6	-1.0
	無解答率	17.1	14.9	+2.2

児童自らが情報を分類整理して共通点を見だし、見いだしたことがほかの場合についても当てはまるかどうか調べようとする態度を育てるとともに、児童の気づきや考えを基に、本時の学習の目的を明確にすることが大切です。

導入場面

① 2けたのひき算の答えに着目し、分類整理することで、9の倍数になっていることに気付く。



1から9までの数が書かれたカードが1枚ずつあります。
この中から2枚のカードを選んで、次のような、
カードを使った2けたのひき算の計算をしましょう。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

【カードを使った2けたのひき算】

選んだ2枚のカードを並べて、2けたの整数を2つ作り、大きい数から小さい数をひきます。
例えば、1と5を選んだ場合、1 5 と並べると15が出来ます。5 1 と並べると51が出来ます。
【2けたのひき算の式】 $51 - 15$ 【2けたのひき算の答え】36

いろいろな式を立ててみると、答えが同じ式がいくつかあります。何かきまりがあるのかな。

2けたのひき算の答えが同じ式をまとめる。

$21 - 12 = 9$ $31 - 13 = 18$ $41 - 14 = 27$ $51 - 15 = 36$
 $32 - 23 = 9$ $42 - 24 = 18$ $52 - 25 = 27$ $62 - 26 = 36$
 $53 - 35 = 18$

$71 - 17 = 54$
 $82 - 28 = 54$
 $93 - 39 = 54$

答えが同じ式どうし
で整理してみました。
2けたのひき算の答
えは9の倍数になって
います。



そのほかにも、「 $72 - 27 = 45$ 」、「 $81 - 18 = 63$ 」、「 $91 - 19 = 72$ 」となるように、
2けたのひき算の答えは9の倍数になっています。

② 見いだした数量の関係を言葉や式に表し、その関係が成り立つ理由を、図を用いて考える。



2けたのひき算の答えが同じ式どうしを見て、気付いたことはありますか。

2けたのひき算の答えが18のときは、カードの差が2です。



2けたのひき算の答えが54のとき、カードの差はすべて6になっています。



式に表すと $2 \times 9 = 18$ です。

$9 \times 6 = 54$ です。

カードの差と2けたのひき算の答えには、きまりがありそうです。



カードの差を使って、2けたのひき算の答えを簡単に求めることができるきまりを説明しましょう。

「平成29年度<小学校>全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイディア例」（国立教育政策研究所教育課程研究センター）より

② - 4 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例（数学）

平成29年度全国学力・学習状況調査B問題から見られた課題

中学校 数学B 1

【出題の趣旨】

与えられた情報を読み、「事象を図形に着目して観察し、その特徴を的確に捉えること」「事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明すること」「事象を多面的に見ること」ができる

		北海道	全国	差
2つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明する	正答率	13.1	14.0	-0.9
	無解答率	19.9	17.7	+2.2
与えられた模様について、図形の移動に着目して観察し、対称性を的確に捉える	正答率	51.4	52.8	-1.4
	無解答率	0.2	0.3	-0.1

事象の特徴を的確に捉え、数学的な表現を用いて説明することができるようにするために、関係を捉えて考察する活動や成り立つ事柄を説明する活動を取り入れることが大切です。

展開場面

移動前と移動後の2つの図形の間に成り立つ事柄を説明する。



アの正三角形の模様はどのような移動で
ウの正三角形の模様に重なりますか。

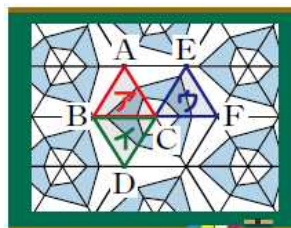
平行移動かな。

1回の対称移動では重ならないね。



模様がずれてしまうよ。

対称移動を何回か繰り返すと重なるね。



他の移動でも重ねることができないでしょうか。

回転移動でも重なりそうだよ。

どの方向に回転するといいのかな。



中心をどこにすればいいのかな。

アは、点Cを中心にして時計回りに回転移動するとウに重なりそうだね。

では、実際にアを点Cを中心にして時計回りに回転させてみるよ。

点Aは点Fに移動するから、回転の角度は $\angle ACF$ になるね。



どのぐらい回転させるといいのかな。

回転の角度を 120° にするとアはウに重なるね。

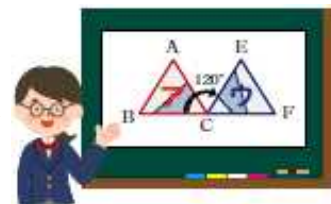


アの模様は1回の回転移動でウの模様に重なりましたね。それは、どのような回転移動で重なるか説明してみましょう。

アの正三角形は、点Cを中心にして時計回りに 120° の回転移動によってウの正三角形に重なります。



回転の中心、方向だけでなく角度もあるとアの正三角形がウの正三角形に重なることについて説明できた！



そうですね。回転移動を正しく説明するためには、回転の中心、方向に加えて回転角の大きさに着目して説明することが必要ですね。

ポイント

「平成29年度＜中学校＞全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」（国立教育政策研究所教育課程研究センター）より